

シラバス

科目名	家庭基礎		単位数	2 単位	学年・学科	2 学年 全学科	必修	必修
教科書名	家基707 図説家庭基礎 (実教出版)			副教材名	家基007-903新図説家庭基礎準拠学習ノート			
科目の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。							
学習内容と進め方	教科書の問題提起の内容を軸に、主体的に「自分ならどうするか」を考えさせ、知識や技能を深めていく学習を行う。 学習した内容を元にして、自分の生活や生き方に活かすことのできることをまとめ、他者と意見交換させてより深めていく。							
学習の留意点	基礎的な知識と技術は、授業内で確実に身に付けさせるようにする。 学習内容を深めるため、自分の日常生活と常に関連させて考えさせながら進める。							
月	単元	総時数	具体的な学習内容	評価の観点			備考(評価項目)	
				1	2	3		
4	家庭科を学ぶとは	2	・学習の意義や内容、レポートの書き方など学習の方法、評価方法の理解			○	・主体的に取り組む姿勢を理解する。 ・学んだことを生かしホームプロジェクトに取り組む。(年間)	
5	第1章 自分らしい生き方と家族	8	・生活を支える労働・生活時間 ・男女共同参画社会をめざして ・現代の家族、社会環境の変化や課題 ・家族に関する法律の理念と変化	○	○	○	・人生の目標と計画を考える。職業選択の道筋を考える。 ・家族の機能の変化を理解し、現在の家族の課題を考える。 ・憲法や民法の理念を理解し、人生を法律の観点から整理する。 ・家庭と仕事を男女で共に担うことについて考える。	
6	第6章 衣生活をつくる	10	・健康で安全な衣服 ・衣服素材の種類と特徴、性能改善 ・家庭での洗濯・保管・管理 ・持続可能な衣生活をつくる	○		○	・現代の衣服の機能を理解する。 ・衣服素材の特徴と、繊維の改質や加工の付加価値を理解する。 ・衣服の購入と管理、衣服の補修ができる。 ・衣類と資源の関係を理解し、環境に配慮した衣生活につなげる。	
7	第2章 子どもとかかわる	8	・子どもの誕生、発達 ・子どもの生活習慣と健康 ・子育て環境と支援・法律・制度	○	○	○	・誕生から幼児期までの子どもの心身の発達について理解する。 ・子どもの人間形成に係る、保育者や大人の重要性を表現できる。 ・子どもが健やかに育つための環境整備を具体的に考える。	
8		3	・ホームプロジェクト		○	○	・各自のテーマで取り組みレポート内容を発表する。	
9	第5章 食生活をつくる	16	・私たちの食生活と健康、栄養素 ・食品の選択と表示、食品の衛生 ・食料自給率と食のグローバル化 ・食の未来と環境への取り組み ・献立作成と調理の基本	○	○	○	・食事の意義を理解する。 ・五大栄養素と食品に関する基礎知識を身に付ける。 ・主体的に食品を選択し、バランスの良い食事計画に結びつける。 ・基本的な調理技術と後片付けができ、実際の生活に生かす。 ・食生活の現状をとらえ、環境に配慮した食生活を考える。	
10				○		○		
11	第8章 経済的に自立する	4	・家庭の説明社会と家計の変化 ・長期的な経済計画を立てる	○	○	○	・家計の収支バランスについて考え、経済設計を立てる。 ・保険や金融商品などの種類や特徴について知識を身に付ける。	
12	第9章 消費行動を考える	4	・契約と消費者を守る制度・法律 ・消費者の権利と責任 ・持続可能な社会をめざす取り組み	○	○	○	・契約の意味を理解し、トラブルの内容と解決方法を理解する。 ・消費者問題を学び、法律や消費者運動、行政の動きを理解する。 ・持続可能な消費について調べ、考える。	
1	第3章 高齢者とかかわる	6	・高齢者を知る、サポートと介護の心 ・高齢社会を支えるしくみ	○	○	○	・高齢者の心身の変化や特徴と、家族の関わりについて理解する。 ・超高齢社会を支える仕組みやサービスを理解できる。	
2	第4章 社会とかかわる	4	・共に生きるために、社会保険制度 ・社会の一員としての私たちの役割	○		○	・地域社会の一員として、実際の活動につなげる。 ・共生社会とノーマライゼーションの考え方を理解する。	
3	第7章 住生活をつくる	4	・健康と安全に配慮した住まい ・ライフステージと住まいの計画 ・持続可能な住まい	○	○	○	・平面図を読み、自分に適する住環境を選択できる。 ・地域社会との係わりも含めたより良い住環境を考える。 ・ズームアップ(防災・減災について考えよう)	
	生活設計	1	・家庭基礎の1年間の学習を生かして、自分らしい生き方を設計する。			○		
評価方法	(1) 評価の観点については、下記の表の通りとする。 (2) 単元テスト、定期考査、技能の習得状況、学習ノートや提出課題の完成度、実習や体験学習を含む学習活動への参加や取り組み状況などから、総合的に評価する。							
評価の観点	観点	趣旨						
	1. 知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。						
	2. 思考・判断・表現	生涯を通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。						
評価基準	3. 主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。						
	1. 知識・技能	A 生活を主体的に営むために必要な基礎的な内容について理解しているとともに、それらに係る技能を身につけている。 B 生活を主体的に営むために必要な基礎的な内容について理解することと、それらに係る技能を身につけることが概ねできている。 C 生活を主体的に営むために必要な基礎的な内容について理解することと、それらに係る技能を身につけることが不十分である						
	2. 思考・判断・表現	A 生活の中から問題を見いだして課題を設定し、実践を論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。 B 生活の中から問題を見いだして課題を設定し、実践を論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけることが概ねできている。 C 生活の中から問題を見いだして課題を設定し、実践を論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけることが不十分である。						
3. 主体的に学習に取り組む態度	A 様々な人々と協働して地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 B 様々な人々と協働して地域社会に参画しようとするとともに、生活の充実向上を図るために実践しようとするものが概ねできている。 C 様々な人々と協働して地域社会に参画しようとするものと、生活の充実向上を図るために実践しようとするものが不十分である。							